

平成26年度第8回定例会

八王子市教育委員会会議録（公開）

日	時	平成26年8月6日（水）	午前8時30分
場	所	八王子市役所 8階	801会議室

第8回定例会議事日程

- 1 日 時 平成26年8月6日(水) 午前8時30分
 - 2 場 所 八王子市役所 8階 801会議室
 - 3 会議に付すべき事件
 - 第1 第16号議案 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について
 - 第2 第17号議案 平成25年度教育予算に係る歳入歳出決算認定の調製依頼について
 - 第3 第18号議案 平成26年度9月補正予算の調製依頼について
 - 4 協議事項
平成27年度八王子市立小学校使用教科用図書の採択について (指導課)
-

八王子市教育委員会

出席委員（5名）

委員 長	（1 番）	小田原 榮
委員	（2 番）	和田 孝
委員	（3 番）	星山 麻木
委員	（4 番）	金山 滋美
教育 長	（5 番）	坂倉 仁

教育委員会事務局

教育 長（再掲）	坂倉 仁
学校 教育部 長	野村 みゆき
学校教育部指導担当部長	相原 雄三
教育 総務 課 長	小林 順一
学校 教育 政策 課 長	小俣 勇人
施設 管理 課 長	岡 功英
保健 給食 課 長	新納 泰隆
教育 支援 課 長	穴井 由美子
指 導 課 長	細井 東
教 職 員 課 長	廣瀬 和宏
統括 指導 主事	山本 武
統括 指導 主事	斉藤 郁央
生涯学習スポーツ部長	天野 克己
中央 図書館 長	中村 照雄
指導課 前任 指導 主事	野村 洋介

八王子市立小学校使用教科用図書選定資料作成委員会

委員 長	高橋 洋
副 委員 長	宇津木 孝充
副 委員 長	吉澤 淳

副 委 員 長	中 込 順 子
教科別調査部会「社会（地図）」部長	有 賀 康 美
教科別調査部会「社会（地図）」副部長	小 林 巧
教科別調査部会「算数」部長	鈴 木 淳
教科別調査部会「算数」副部長	安 斎 和 樹
教科別調査部会「理科」部長	西 岡 利
教科別調査部会「理科」副部長	半 田 あつ子
教科別調査部会「図画工作」部長	飯 澤 公 夫
教科別調査部会「図画工作」副部長	白 石 貴 志
教科別調査部会「家庭」部長	原 市 裕
教科別調査部会「家庭」副部長	土 屋 栄 二

事務局職員出席者

教 育 総 務 課 主 査	堀 川 悟
教 育 総 務 課 主 任	川 村 直
教 育 総 務 課 主 任	村 石 英 里
教 育 総 務 課 嘱 託 員	村 尾 ひとみ

【午前8時30分開会】

○小田原委員長 大変お待たせいたしました。本日の委員の出席は5名、全員でありますので、本日の委員会は有効に成立いたしました。

これより平成26年度第8回定例会を開会いたします。

毎回申し上げておりますけれども、本市では、夏季の省エネルギーの取り組みを継続しております。本定例会においても出席者は軽装で、また照明は一部消灯して実施させていただいておりますので、御理解いただきますようお願いいたします。

また、本日行われている広島の平和祈念式典において、先ほど黙祷がございました。本市でも黙祷の予定がございますので、その節はよろしく願いいたしたいと思えます。

日程に入ります前に、本日の会議録署名員の指名をいたします。本日の会議録署名員は2番、和田孝委員を指名いたします。よろしく願いいたします。

なお、議事日程中、第16号議案から第18号議案までの3議案は未だ意思形成過程のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項及び第7項の規定に従い、非公開といたしたいと思えますけれども、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 御異議ないものと認めます。

それでは、それ以外の日程について進行いたします。

○小田原委員長 初めに協議事項となります。「平成27年度八王子市立小学校使用教科用図書の採択について」を議題に供します。

本日の協議は、前回の定例会において決定いたしましたとおり、種目ごとに資料作成委員会の報告、説明を受け、それに関して質疑を行い、協議終了後に、各委員の無記名による意見集約を行うという順序で行いたいと思えますが、御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 それでは、そのような形で進めたいと思えます。

なお、意見集約の結果については、次回8月20日に開催予定の第9回定例会の中で各委員の選考状況を参考に協議いたし、採択を行います。

本日協議を予定している種目は社会、地図、算数、理科、図画工作及び家庭の6種

目であります。それでは、事務局は意見集約のための記入用紙を配付願います。

〔記入用紙配布〕

- 小田原委員長 それでは、協議を始めます、まず社会について、資料作成委員会から御報告願います。
- 有賀教科別調査部会「社会（地図）」部長 社会科の部長をさせていただきます川口小学校の有賀と申します。よろしく願います。
- 小林教科別調査部会「社会（地図）」副部長 第二小学校の小林です。よろしく願います。
- 有賀教科別調査部会「社会（地図）」部長 それでは、まず私から説明をしたいと思えます。項目はたくさんありますので、この中から主なものということで御説明をしたいと思えます。

説明の前に、社会科の教科の特性として小学年3、4年生は、どの自治体もそうですけれども、八王子市がつくっている「わたしたちの八王子」という副読本をかなり中心に学習をしています。教科書を全く使わないわけではないのですが、教科書と併用して、副読本をメインとして使っているということをまずお知りおきいただきたいと思えます。

それでは、教科別調査部会が作成した資料「小学校使用教科用図書調査研究報告書」に基づいて説明いたします。調査の観点の「1 内容」についてです。5項目に分かれています、 「（5）児童の習熟の程度に応じた発展的な学習内容の取り扱いが適切であるか」というところで、社会科の部会としては、領土問題をどのように扱っているかという視点で見ました。

東京書籍では、5年生の国土の単元8ページと9ページ、それから6年生の歴史の最後のところで領土問題を扱っています。

教科書を見ながら説明したいと思えますが、該当ページでは写真と位置関係が書いてあって、領土問題は囲みとして書いてあります。囲みの中にどのように書いてあるかといいますと、東京書籍では、北方領土については「ロシア連邦が不法に占領していて、返すように交渉をしている」、それから、竹島については「韓国が不法に占領している」、それから、尖閣諸島については「中国がその領有を主張している」と書いてあります。

それから、歴史の最後の方の「日本の周りの国と日本」というところですがけれども、

ここにも「日本固有の領土」と書いてあり、ロシア連邦については、「北方領土の返還が残されている」、それから、韓国については「1950年から不法に占領しており、日本は抗議を続けている」、中国については「尖閣諸島の領有を主張するようになった」と記されており、それに北方領土の地図が載っています。また、北朝鮮については帰国した拉致被害者が飛行機からおりる写真が載っています。

それから、教育出版ですが、扱いが非常に多いです。5年上、10ページから13ページと14ページ。6年の上巻に2ページ、下巻にも2カ所に載っています。5年生は、日本の領土の周りの国々ということで、4ページにわたって書いてあります。これは、囲みではなくて本文ですけれども、「不法に占領、返還を求めている」竹島については、「日本の領土で韓国は不法に占拠しており、抗議をしている、話し合いで、平和的に解決しようとして働きかけている」と記されています。

それから、尖閣諸島については、「日本の領土、中国が自国の領土だと主張している」それから、「中国船の進入、同意のない海洋調査、違法な漁業、それを取り締まり、行為の中止を求めている」というようなことも書いてあります。

それから5年生の上、北海道のところでも、「北方領土の問題が解決されずに残っている」、6年の上にも囲みとして、「北朝鮮が拉致を認めたさまざまな問題の解決を働きかけている」とか、北方領土も「固有の領土でソ連の時代から占領、返還を求める交渉をしている」、5年生の下にも、竹島については「日本の領土、不法な占拠、日本は抗議、平和的な話し合いを働きかけている」ということが書かれており、尖閣諸島についても、上巻と同じ文章が、下巻にも載っています。かなりいろいろなところで扱われていると思います。

それから光村図書ですが、ここも5年生の上、同じような箇所ですけれども、日本の位置と領土というところで、2ページに渡って記述があり、東京からの距離などを地図であらわしています。北方領土については、「もともと日本の領土、ロシアが占領、今も不法に支配、返還を求める交渉」、竹島も「日本固有の領土、韓国が不法に占拠、強く抗議している」、尖閣諸島については「日本の領土、中国が領有を主張している」と書かれています。

6年生の下の「世界の中の日本の中」というところでは、韓国、ロシア、中国について、それぞれ5年生と同じ文章ですが、記述があります。それから、北朝鮮については、拉致問題、核兵器の開発など、多くの事件や課題があると書かれています。

日本文教出版ですが、同じように5年の上、「日本の位置と範囲」というところで、写真とともにロシアが「不法に占拠、日本固有の領土を返すように働きかける」、竹島についても、同じように記述してあります。尖閣諸島についても書いてあります。

それが資料の調査の観点の「1 内容」の部分になります。

次に、調査の観点の「2 構成及び分量」のところでは、

ここについては「(3) 教科の特質に即した基礎的事項をおさえ、補充教材及び発展的教材の取り扱いについて配慮しているか」というところですが、東京書籍は、例えば5年生の上の36ページと37ページ、ここに特徴のある地域の学習ということで選択教材になっているわけです。このところほどの教科書もそうですが、

その中で、日本の特徴ある地域、「高いところと低いところ」、それから「寒いところと暖かいところ」となっていて、そこを選択した後に、さらに「ひろげる」というコーナーで、「高いところと低いところ」では「山地」が、それから、「寒いところと暖かいところ」の後には、「雪国」を扱っています。

こういう扱い方というのは、どこの教科書もそうなのですが、教育出版では「もっと知りたい」というコーナーを、5年生の下60ページと63ページに作っています。また、自然災害、防災のところも発展的で、今、話題になっている災害と防災、減災について、40ページから47ページまで見開きになっています。

光村図書も、発展的というところでは、まとめ方のところで、劇化といったまとめ方をしており、28ページでは「劇をしてみよう」、43ページでは「新聞をつくろう」、「体験をしてみよう」というような発展的な扱いがされています。

日本文教出版も、まとめ方でいろいろな例示をしていて、44ページ、45ページ、104ページ、105ページに発展的な扱いがされています。

続いて、調査の観点の「3 表記、表現」です。ここは各社特長というところもありますが、東京書籍と教育出版は、いろいろな写真、グラフ、資料が載っているのですが、その資料それぞれに番号や記号がついているので「何番の資料は」というような授業ができます。東京書籍は番号、教育出版はア、イ、ウ、エ、オという記号です。

光村図書、日本文教出版には、それは無いのですが、わかりやすくなっていると思います。あと資料の囲みとか、こういう欄外の資料ですが、わかりやすい改行といいですか、1行に入る文字数まで目いっぱい書いて改行するのではなくて、言葉の切れ目とかで上手に改行をしていて、読みやすくしているというような工夫もされています。

した。

それから、調査の観点の「4 仕様上の便宜」です。特に「(4) 地域性の配慮」のところでは、地域性をどうとらえるかということもあるのですが、八王子や近隣の事例をどのくらい、そしてどんなところが使われているかというところを調べてみたのですが、東京書籍は5年生の下に大田区や港区、皇居といったところがでており、5年生の上では、丘陵地に広がる住宅地といった航空写真が載っていて「東京都八王子市」と書かれています。

多摩ニュータウンとは書かれていないのですが、調べてみるとちょうど南大沢あたりの多摩ニュータウンのようでした。

教育出版については、東京や多摩地区の事例がとても多く載っている教科書だなと思いました。特に戦争の遺構として葛飾区、府中市、それから東大和市あたり。それから、特に6年の下の10ページに写真入りの囲みで、八王子市の小学校では租税教室が行われているということが、かなり大きく扱われています。近い場所の事例も多いかなと思いました。

光村図書については、3、4年生ですけれども、特に104ページから137ページまでの「私たちの県」という単元の中で、横浜市や相模原市など、神奈川県が中心に取り扱われています。

日本文教出版については、姫路や和歌山といった関西方面を中心に扱っていると思いました。

八王子と全く違う地域を取り扱っているほうが良いという考え方もあろうかと思いますが、近い場所の取扱いという見方をするとこのような状況でした。

最後に総合所見です。

現行は東京書籍を使っているわけですが、児童の学習、それから指導の観点というところでは、どの教科書も問題解決型の学習を中心に進めていくという意味では、非常によくできていると思いますし、東京書籍や教育出版は、「つかむ、調べる、まとめる」という基本的な流れが非常に大事にされていると思います。

また、東京書籍はキャラクターを非常に上手に使ってわかりやすく、親しみやすいものになっていると思います。教育出版については、各単元が非常に丁寧で扱いやすいものとなっていますので、社会科を専門に研究していない教員、また、得意でない教員、若手の教員にも使いやすくなっていると思います。

光村図書については、現行のものに比べて、内容が高度だなという印象があります。能力が高い児童には適していると思います。

また、日本文教出版については、非常に資料が豊富で、文書も多いので、知的好奇心が高く、学習意欲が旺盛な児童には非常にいいのではないかと思います。

社会についての説明は、以上でございます。

○小田原委員長 資料作成委員会からの報告は終わりました。

ただいまの御報告につきまして、御質疑ございましたらどうぞ。

○和田委員 それでは、最初に質問をさせていただきます。

調査の観点1の(5)のところで、国土の扱いの説明がありましたよね。これについて、まず基本的なところからなのですが、教科書の中での本文記載と囲みやコラムでの扱いについて、指導する側で何か違いがありますか。

つまり本文記載であれば、その部分は必ず扱わなければならない。囲みであれば、それを必ずしも取り上げなくてもいい。そういう区別があるかどうかということについて、実際にお使いになるときはどうかをお聞かせください。まずこれが1点目の質問です。

2点目も、調査の観点1の(5)のところで、児童の習熟度の程度に応じた発展的な学習内容の取り扱いとなっているわけですが、ここに掲げられている記載の内容というのは微妙に違っているようで、基本的には文部科学省からの通知に基づいた表記がなされていると考えるわけですが、5年生なり6年生に関して、ここで書かれている表記の仕方、記載の仕方というのは、教科書会社によって違っているという捉え方をしているのか、ほぼ同様の記載であると捉えられるのかについてお聞かせください。これが2つ目の質問です。

それから3つ目にお伺いしたいのは、一つの例を挙げれば、韓国の竹島の不法占拠と中国の尖閣諸島を巡る行動に対し日本が抗議をしたり、返還を求めているというような記載があるわけですが、これは授業の中では、この説明をした後に、どういう展開をされるのでしょうか。

つまり、そういうことを読み上げておしまいになるのか、あるいは指導の中では、その後どうされるのか。その辺のところを御説明いただきたいと思います。

○有賀教科別調査部会「社会(地図)」部長 まず本文と囲みの違いですけれども、実際に授業をやる中では、特段の差というのはないと思います。本文に書いてある内容も

囲みの内容も、同列に授業の中では扱っているものと思います。基本的にこの見開きの1ページを1時間で扱うというような教科書の展開になるので、1単位時間45分の中で、本文しか読まないとか、囲みだけを重点的にということではなくて、この中で児童が課題を持つ場面であったり、調べる場面であったりというところでは差はないと考えます。

それから、2番目の記載内容の違いですけれども、細かく見るとその温度差というようなもの、例えば文言でいえば占領なのか占拠なのかだとか、日本固有の領土、日本の領土、または、もともと日本の領土であるというような、非常に微妙な言葉の違いはありますけれども、基本的にはどの教科書も、今の日本の政府の考え方を踏襲して特に大きな違いはないであろうと思っています。

3番目の授業の中での展開については、副部長から説明いたします。

○小林教科別調査部会「社会（地図）」副部長 社会科の授業が、教科書にしても資料集にしても、一つの事実として捉えている。ですから、これもやはり国土の中での事実、それから歴史事象の中での事実と捉えています。

それから、事実に対して、その子がどのように見たか、どのように考えるかということが、社会の授業の中心になりますので、あまり教師が主観を加えて、こういうふうにやっているからこうだよってというような押しつけ的なものは、実際の授業では行われていなくて、あくまでも歴史的な事象の事実として捉えて、そこであなたはどうか考えますかというようなことを実際の授業ではやっております。

○小田原委員長 ということですが、いかがですか。

○和田委員 今の御説明をお聞きして、本文と囲みとの違いってというのは特にないと捉えているわけですけれども、きちんとした事実を把握させるという意味では、この表記の仕方であるとか、これを教科書の本文に入れるか、コラムに入れるかっていうのは、一つの教科書会社としての方針でもあると思うわけですね。

ですから、やはりきちんと本文であれば読み上げるでしょうし、その文書に沿って資料に展開していくのだろうと考えるわけですけど、結論からいうと、そうであっても授業の中では特に違いがないと捉えて良いということによろしいですか。

○有賀教科別調査部会「社会（地図）」部長 はい。

○小田原委員長 そのほかいかがですか。

○星山委員 2点お伺いしたいのですが、1点目は災害のこと、特に東日本大震災のこと

や、そのときの防災の意識などについて、各社で何か違いや特徴というものがありましたら、お教えてください。

それから、2点目はどの教科の採択でも伺っているのですが、八王子の先生方の教える力とそれから八王子の子どもたちに合った教科書を採択したいと思うのですが、その点を加味して何か参考になる御意見がありましたらお聞かせ願いたいです。

○有賀教科別調査部会「社会（地図）」部長 災害、また防災については、1の内容の（3）のところで、重点的に調べてみたのですが、東日本大震災についての記述や、それ以外の自然災害については、東京書籍についてはテレビ局の報道を中心に、情報の単元になりますけれども、15ページほど扱っています。教育出版についても8ページほど扱っています。

光村図書の場合は、かなりいろんな学年に配置されていて、3・4年生、それから5年生、6年生にもそれぞれ防災の視点での部分があると思います。

日本文教出版も、同じようにかんりのページ数を割いていて、特に特徴的なものとしては、囲みとして原発事故のことが書かれているというところです。

それから、先ほど関西の事例が多いという話をしましたけれども、かなり年月は経ったのですが、阪神淡路大震災のことにも触れているところは特徴としてあるかなと思います。

自然災害である風水害、雪害、火山の噴火等については、どの教科書もかなり重点的に取り上げていると思っています。

○小林教科別調査部会「社会（地図）」副部長 私のほうからは、八王子市の現場の教員にとって使いやすいか使いにくいかということでお答えさせていただきますが、光村図書と日本文教出版ですが、光村図書の方は言語活動をかなり中心としており、日本文教出版の方は内容量が豊富となっています。こういう言語活動の内容が多かったり、学習内容が多かったりすることは、八王子の子どもにとっては結構つらいのではないかなと少し思っております。

東京書籍と教育出版で比べてみますと、東京書籍は問題解決学習の本道を進んでいるということで、本来、考える力や判断する力、表現する力を育てるのには、適した教科書と思います。もちろん教育出版もそのように書かれておりますが、若手とか若手教員を対象にしているような記述や表現も見られます。

そうすると、これは八王子市の教員だけの問題ではなくて、もともと現場では社会

科が嫌いだったり、苦手だったり、社会科をどうやって教えたらいいか悩んでいる若手の教員が多いんですね。内容量が多いと、どうしても読解指導に陥ってしまいます。ですので、そういう意味では、若手とか苦手に照準を当てるとすると、教育出版のほう扱いやすいかなと思います。

○小田原委員長 防災は今、同じように扱っているというような言い方もあったのですが、けれども、細かく見ていくと5年生、6年生に渡って扱っているところと、5年生だけで終わっているというところに分かれますね。それから、先ほどもあったようにテレビ等の情報のところで扱っているところと、それから、ほとんどのところが5年生の最後の国土の環境のところの災害のところで、扱っているわけですが、公害とかリサイクルのところで、震災については触れてないところもありますよね。それから、5年生の産業のところで震災、特に漁港の問題あたりで触れているところがあるという、防災についての観点はそんなふうに見られるのではないかなと思っています。

それと、山地と雪国の話が出てきたのですが、山地を表す用語が、山脈・高地・山地・丘陵といくつかあり、平地については、平野・盆地・台地とあるのですが、その辺はどう考えたらよろしいですか。

○有賀教科別調査部会「社会（地図）」部長 基本的に5年生の地理の学習のところは、日本の特徴のある地域ということで、どこを学習しなければいけないということではありません。暖かかったり寒かったり、高かったり低かったり、それから特徴があるということで山地とかその奥地や海沿いといった特徴のある地域について学習していることですので、山地についての表現、言葉の区分ということよりも、特徴のある地域をどのようにとらえて、日本にはこういう地域があって、そういう地域の特徴を上手に利用してそこで生活している人がいるということや、そこでの生活には様々な工夫や苦労があるんだなということを勉強していこうということだと思いますので、特に山地を表す言葉が分かれていることについては考えてなくていいのかなと思います。

○小田原委員長 では、もう一点お伺いしたいのですが、温暖化については、防災や災害のほかに、持続可能な社会といった一つの観点があるかと思うのですが、どの教科書がそういう点について触れていて使いやすいといったことはございますか。

○有賀教科別調査部会「社会（地図）」部長 持続可能な社会についての考え方については、資料にも少し書いたと思いますが、どの教科書も環境の問題のところ、また6年

生の政治单元などでも「持続可能な社会を目指して」というように、どこも扱っているかなと思います。

特に教育出版は資料の調査の観点「2 構成分量」の(1)のところに記述していますが、6年生の下巻の政治单元や国際理解の单元のところで、3カ所にわたって持続可能な社会というものについて書いてあります。特に多いということではないのかなと思いますけれども、教育出版の特徴的なところではあるかと思います。

○小田原委員長 その教育出版は、資料の総合所見のところで、教員の側から見て扱いやすいと書かれていますが、光村図書や日本文教出版は、子どもの側から述べられているわけです。社会科の得意な教員とか若手教員が、使いやすい教科書がある一方で、能力の高い子どもや、あるいは好奇心の高い子どもたちには適しているという、そういう教科書は、教員にとってはどうなのですか。扱いにくいということになるのですか。

○小林教科別調査部会「社会(地図)」副部長 やはり内容量が多いと、先ほども言ったとおりに、若手教員とか苦手教員にとっては、すべてやらなければいけないというところで、読解というか、全て理解させなければいけないというような授業になってしまうことが多いんですね。ですから、内容量が多いほど、教員にとって負担になってくるし、時間が足りなかったり、テストのための学習になったりするようなことにも陥ります。本来は問題解決学習、問題解決能力を育てたいというのが社会科の趣旨でございますので。

○和田委員 今の委員長のお話にも関わってくるのですが、結局、学習の進め方と記載されている情報量というか、資料等の量というのは、授業のスタイルを決める部分になってくるのではないかと思うんですね。

これまで使っていた教科書の中で私が評価をしているのは、学習の進め方、児童がどうやってこの学習を進めていくのかが、教科書の中に明示されていて、ここでは何を学ぶのかっていうのがはっきりしていることで、現行の教科書にはそれが非常に顕著に見えたものですから、そういう部分を良さとして評価しています。

ほかの会社の教科書の中には、例えば資料を羅列して、周りからのキャラクターによるコメント等を抑えているような、そういうところもあるわけですが、結局は、そういう教科書に書かれてない質問であるとか観点を示さない場合には、それを先生がいろいろ指導していくということになるわけですね。そうすると、どれだけ社会の

苦手な先生がいらっしゃるかはわからないのですが、資料の羅列とは言いませぬけれども、あまり学習の流れを示さない形になっているものに比べると、学習の流れがある程度示されていた方がやりやすいと考えてよろしいでしょうか。

○小林教科別調査部会「社会（地図）」副部長 苦手な先生っていうのは、社会科をどう授業したらいいか、どう学ばせたらいいかということがわからない、見通しが持てないという実態がありますので、つかむ、調べる、まとめる、広げるなどという学習課程の中での、例えば基本的な発問とか、どういう目当てで考えさせるといったことが指示されているほうが確かに使いやすいと思います。

○小田原委員長 社会科が得意か得意でないかっていう教員の割合とか数をどう見るかということになると思うのですが、教科書に示されていないければ、質問できないというようでは少々困るなどは思いますけれどもね。

そういう点で、教科書の編集の仕方というのが、そういうところを丁寧に触れているところと、それからそういうところを排して、資料的な部分を数多く載せようとするのかっていうのは、分かれ目だろうと思いますが、その判断をしていただければと思います。

そのほかよろしいですか。特にならぬようでございますので、社会科は以上ということで、次に、地図に移りたいと思います。

それでは、地図について資料作成委員会から御報告願います。

○小林教科別調査部会「社会（地図）」副部長 地図について、第二小学校の小林から報告させていただきます。

地図は2社でございます。東京書籍と帝国書院です。報告書の内容は、読んでいただいているという前提で、私から8点お話をさせていただきます。

まず、帝国書院は全国のほとんどの小学生が使っている地図帳でございますが、今回、東京書籍と大きく違うところは、大きさです。東京書籍はA4版、それから従来の地図帳はA3版です。このA3版というのは、教科書と全く同じ大きさです。

やはり大きくなった分、活字も大きくなりましたので、見やすいという利点がございます。また、索引数も東京書籍の方が多く、東京書籍が10ページで、帝国書院が6ページです。索引数が多い分、地名数も日本、世界ともに多くなっています。ただ、それだけではなくて、東京書籍は4、5年生の導入で使うときに、やっぱり見やすいというのが何としても利点です。

ただし、体裁については、帝国書院の方がしっかりできている感じを受けます。光沢は東京書籍の方がいいのですが、3年間使うとなると、やぶけてしまうんじゃないかというような意見が委員から出ていました。

それから2点目でございますが、見開きのところでございます。東京書籍は、見開きで地形図が見られて、委員からも「海がきれいだ」といった感想が聞かれましたし、イメージ的には「美しい」という感じを持ちました。

ただし、地図として使う分には、帝国書院のように行政区分地図が載っていて、目次がすぐ載っているほうが使いやすいのですが、東京書籍は6ページ目ぐらいになって、やっと索引が出てくるんですね。頻繁に地図を調べる授業の上では、索引を見ながら地図に入っていくわけですので、ここまでたどり着くのに、また破けてしまうかなんていう話をしておりました。

それから、3点目です。教科書とのかかわりですが、もし東京書籍を使うとなると、やはり東京書籍の地図帳が連動して使いやすくなるかなと思います。東京書籍は5、6年中心の教科書の内容や小学校レベルに合わせてわかりやすく描かれております。

それから資料のページが後半にございます。地図以外のところの資料のページが書かれているのですが、東京書籍のほうは、その資料の内容が教科書と連動して充実しており、かなり見やすくわかりやすいです。帝国書院の方は、もう前から変わっておりませんが、どちらかというところ、こちらは中学校につながる内容が資料に満遍なく配置されております。ただ、子どもにとってはどちらが見やすいかというところ、やはり大きくてわかりやすいほうが見やすいのではないかと思います。

資料ページの中で、特に東京書籍の利点としては、エネルギー問題を取り上げておりまして、火力、風力、水力等の発電の中で、原発の比率も取り上げているグラフがございまして、67ページの発電所の分布にも、原発のことが載っております。

一方、帝国書院の良さは、最後のページに、防災に関するページがございまして、かなり防災を意識した、防災の取り組みについての資料ページがございまして。

4点目でございますが、日本の国土とか領土問題についてですが、東京書籍はどちらかというところ13、14ページに、見開きで地勢図的な表現で載っております。それから、帝国書院の方は排他的な経済水域も扱っておりますし、13ページ、16ページで尖閣諸島と竹島の問題も扱っております。

それから、5点目にいきますが、東京都の八王子市の扱いです。ここがとにかく一

番委員の中で意見が出たのですが、東京書籍の東京地域の地図は23区の都心部が中心で、お台場とかのほうですね。帝国書院の良さは、何よりも八王子市が載っています。東京都は東西に描かれていまして、東京都の西高東低の地形図がよくわかります。

それから、6番目です。扱いやすさや地図の調べやすさについては、帝国書院のほうは、都道府県の区分図という目次が1ページにあるので、すごく調べやすいですし、各ページに、インデックスで地域名が書いてあるので、これもすごく調べやすいです。

それから7点目ですが、地図帳の使い方については、東京書籍と帝国書院がともに扱っておりますが、帝国書院の方が地図の見方とか扱い方について、丁寧に説明がなされております。

それから、8点目でございますが、世界地図については、扱うのは5年生か6年生が多いのですが、帝国書院は6年の国際理解の学習の日本と関係のある国というところで、ヨーロッパとアメリカはすごく関係が高いので、ヨーロッパとアメリカだけは縮尺を大きくして、1万1,500分の1で描いてわかりやすくしております。

東京書籍は、ユーラシア大陸と北極との地球的な位置関係をあらわす部分がありまして、それが横の地図では位置的なものや、距離的なものがかみにくいのですが、地球儀的に扱えるページがあり、距離的なものをとらえることができます。

地図についての説明は以上です。

○小田原委員長 地図についての説明が終わりました。

ただいまの報告で何点目とおっしゃっていたのは、報告書の番号とは一致しないので、箇条書きで8点にわたって説明されたようですが、ただいまの報告について、御質疑ございませんか。

○金山委員 1点あるのですが、帝国書院では取り上げているのに、東京書籍では鳥瞰図、位置図がゼロなのですが、そこはどう評価なさいますか。これはあったほうがよいのか、使う機会はあるのでしょうか。

○小田原委員長 位置図もあわせて比較すると、そこは大きな違いになるでしょう。

○小林教科別調査部会「社会（地図）」副部長 鳥瞰図や位置図があるのは、導入期の4年生にとってはすごく使いやすいと思います。

それから、西高東低に載っている東京都の位置図は、4年生で内容的に絶対出てくるので使う地図なのですから、これは八王子の子にとって、とっても貴重な部分だと思っております。残念ながら、東京書籍のほうは23区しか載っていないので。

○小田原委員長　八王子が出ている、出ていないということとは別に、東京都全体を見るという観点ですよね。そういう点で、縦がいいのか横がいいのかっていう問題になるだろうと思いますね。

東京書籍が改訂して特徴が出てきたわけなんですけど、その特徴が生きるかどうかというところでしょうね。地理的な部分でいえば、はるかに東京書籍のほうがいいだろうと言えるのですが、地図そのもの、地図っていうのは何か、地図の本体の部分を見ていくと、これは帝国書院のほうがまた断然いいということになるんでしょうね。そこをどう考えるかということだろうと思いますけれども。

○星山委員　すごく難しい選択かなと思うのですが、社会科の教科書と地図が一致した出版社であるかないかということについては、どのくらい影響があるのでしょうか。

○小林教科別調査部会「社会（地図）」副部長　地図というのは、常に勉強で学ぶ上での情報とか資料の一つなんです。ですので、例えば八王子市が出てきてから、八王子市ってどこかって地図上で記号をつけたり丸をつけたりする。必ず位置とか、どういう地方にあるとか、どういう地形のどこにあるといったことを調べる上では、帝国書院のほうが地図としてはグレードというか、変な言い方かもしれませんが、昔から扱っているという部分もあります。

ですから、連動していなくても、使えますけれど、ただ東京書籍の場合は資料のページが、教科書と連動してかなり使いやすくなっているというふうには思っております。

○小田原委員長　帝国書院は社会科の教科書をつくっていませんので、連動だけを考えるとすれば、どこも採用しないということになるだろうと。

そのほかいかがですか。

○金山委員　今の八王子の話なのですが、副読本で使われる地図には、八王子が東京都のどの位置にあるといった地図はないのですか。

○小林教科別調査部会「社会（地図）」副部長　ありますが、これほど詳しくはないです。要するに、八王子の自主的な出版ですから、多分、著作権とかいろいろあるのでしょう。だから、詳しい地図は載せられていません。

○金山委員　例えば、八王子の近隣の市がどうというようなものはないですか。

○小林教科別調査部会「社会（地図）」副部長　東京都の横の地図にありますけど、見開きでありますけど、これほど詳しくはないです。

○小田原委員長 文字の大きさも随分違ってきているのですが、都市の規模によって文字が違うのが、本来の地図のあり方だったのを、全く同じにしてしまっているところがありますね。

よろしいですか。それでは、地図について、以上ということで、地図と社会科の両方で、調査部会の委員の皆さんは大変だったと思いますが、お疲れ様でした。

それでは、次に算数に移りたいと思います。資料作成委員会から御報告願います。

○鈴木教科別調査部会「算数」部長 算数部会の部長をさせていただいております、別所小学校校長の鈴木でございます。よろしくお願いいたします。

○安斎教科別調査部会「算数」副部長 同じく副部長、松木小学校校長の安斎でございます。よろしくお願いいたします。

○鈴木教科別調査部会「算数」部長 それでは、算数について御説明させていただきます。

現在使用している教科書は、学校図書でございます。これからの説明の仕方といたしましては、観点ごとに各発行者について御説明いたしますが、特に違いがある発行者について、詳しく御説明いたします。それ以外の発行者につきましては、資料のとおりにして省略いたします。

まず、調査の観点「1 内容」について御説明いたします。(1)から(4)につきましては、結論から申し上げますと、いずれの発行者も配慮しております。「(1)学習指導要領に示された各学年の目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか」につきましては、いずれの発行者も基礎的、基本的な知識や技能が身につくよう繰り返し学習できるようにし、また思考力を育てるよう既習の内容をもとに問題解決を進めるようにしており、配慮していると考えます。

「(2)児童の発達段階に対して配慮されているか」につきましては、いずれの発行者も優しい内容から難しい内容になるように構成し、児童の発達段階に配慮していると考えます。

「(3)各学年に渡る内容の取り扱いに対して配慮しているか」につきましては、いずれの発行者も単元の間には復習問題を設定する。単元の導入に既習に当たる内容を振り返る活動を設定するなど、継続的な指導や学年間の円滑な接続ができるようにしており、各学年にわたる内容の取り扱いに対して配慮していると考えます。

「(4)児童の意欲、関心を引き出す配慮があるか」につきましては、いずれの発行者も日常生活に関連した場面を課題として設定し、児童の意欲、関心を引き出す配

慮をしていると考えます。

「（５）児童の習熟の程度に応じた発展的な学習内容の取り扱いが適切であるか」につきましては、いずれの発行者も補充問題に難易度が異なる問題を設定するなど、児童の習熟の程度に応じた発展的な学習内容が設定されており、学習内容の取り扱いは適切であると考えます。

その中で、教育出版は発展的な学習内容が他の発行者と比較して多く設定されています。数値的に示すと6社平均の約1.7倍の分量となっています。発展問題数が多い場合につきましては、児童の学習状況に応じて選択の幅が広がり、一人一人への対応がしやすいという良さがあります。その一方で、問題を選択するということは、やらない問題があることなので、このことに抵抗感がある教員、保護者、児童がいることが考えられます。全部を扱おうとした場合、児童、教員の負担感が増すことが考えられますので、選択し適切に扱うためには、児童、保護者に対して十分な説明が必要になります。

次に、調査の観点、「２ 構成及び分量」について御説明いたします。

「（１）内容は全体として系統的、発展的に構成されているか」につきましては、東京書籍は単元を分けて段階的に取り扱っています。間をあげ、段階的に学習することで学習効果が上がると考えます。

大日本図書は、全学年合本になっています。合本によって既習事項の振り返りやこれから学習する内容のつながりが把握しやすくなると考えます。

学校図書は、学期ごとに復習があることで、学習の定着度を把握しやすくなると同時に、定着を図ることができると考えます。

教育出版は、習熟のために反復練習が必要な単元は、学期の早い時期に設定しているため、時間をかけて繰り返し学習できると考えます。

啓林館は、単元に入る前の準備として、身の回りにある算数やこれまで学習したことを取り上げ、興味関心を高めるとともに既習事項の振り返りができるものと考えます。

日本文教出版は、習熟のために反復練習が必要な単元は学期の早い時期に設定しているため、時間をかけて繰り返し学習できると考えます。

「（２）各領域の分量について児童の発達段階を十分に配慮しているか」につきましては、いずれの発行者も説明や解法が示されている基本問題、単元内の練習問題、

章末、巻末の問題数は発達段階に応じて十分にあり、配慮していると考えます。

単元内の練習問題、章末、巻末の問題数が他社に比べて多いのは、啓林館と日本文教出版です。数値的に示すと、6社平均の約1.2倍の分量となっています。一番少ないのは、大日本図書の0.8倍となっています。また、1年から6年までの総ページ数で一番多いのは日本文教出版で、6社平均の約1.1倍となっており、最も少ないのは大日本図書で0.9倍となっています。

大日本図書は、標準字数の16%少ない字数で教科書の内容を扱うことができる分量になっていますが、他の5社は標準字数の10%少ない字数となっています。

問題数の多い場合、少ない場合の長所、短所につきましての見解を述べさせていただきます。問題数が多い場合の長所、短所につきましては、先ほど1の(5)で、発展的の学習内容について御説明したことと同様です。問題数が少ない場合は、ゆとりを持ってじっくり学習できるという良さが考えられます。

短所につきましては、前提として十分な問題数が確保されているので、特筆すべきではないと考えます。しかしながら、大日本図書については、全学年合本ということもあり、総問題数、総ページ数が少ないとはいえ、日常的に持ち運ぶときの重量的負担はあると考えます。

「(3) 教科の特質に即した主要教材において基礎的事項を抑え、補充教材並びに発展教材等の取り扱いに対して配慮しているか」につきましては、いずれの発行者も、使用教材において基礎的事項を抑えています。また、単元末に単元全体を振り返りまとめる内容や、巻末に習熟、発展問題を設定しており、教材の取り扱いに配慮していると考えます。

中学校とのつながりにつきましては、いずれの発行者も設定しており、中学校への円滑な接続ができるようにしています。

取り扱うページ数は、各発行者で異なりますが、内容としては、いずれの発行者も負の数や方程式につながる考え方などを扱い、中学校数学への興味関心が高められるものと考えます。

次に、調査の観点「3 表記及び表現」について御説明いたします。

「(1) 児童にとって読みやすい表現であるか」「(2) 印刷、写真、冊子で図形等が見やすくわかりやすいか」につきましては、いずれの発行者も資料に書いてあるとおりでございます。

次に、調査の観点「4 使用上の便宜」について御説明いたします。

「(1) 全体の構成が見通せるように配慮しているか」につきましては、いずれの発行者も配慮していると考えます。合本につきましては、1、5、6年が合本なのが学校図書、教育出版、啓林館の3社、1年生のみ合本なのが日本文教出版、6年生のみ合本なのが東京書籍、全学年合本なのが大日本図書となっています。

合本については、既習事項を振り返りながら、新しい課題を解決しやすくすることを意図しています。一方で、持ち運びやすさや教科書の厚みによる記入のしやすさの点については、合本でないほうが良いと考えます。

また、上下巻に分かれているほうが、児童が下巻を受け取ったときに、新しい気持ちになるという意見もありました。

「(2) 課題発見、課題解決に向けた学習が効果的に進められるように配慮しているか」につきましては、いずれの発行者も配慮しているものと考えます。また、算数では、課題解決において図を用いて考えさせることが重要で、いずれの発行者も図の書き方についての記述があります。その中で、学校図書は1年生からドット図から始まり、テープ図、数直線図など段階を踏んで学習できるようになっており、図の読み方や書き方を無理なく理解し、活用することにつながると考えます。

「(3) 印刷、装丁に対して配慮しているか」につきましては、いずれの発行者も配慮していると考えます。また、色覚特性についても同様です。

「(4) 地域性に対して配慮しているか」につきましては、地域性につきましては、特徴的な点は見受けられませんでした。

最後に、調査の観点「5 総合所見」について御説明いたします。

「(1) 教科の指導及び児童の学習活動の視点から総合的に見てどうか」「(2) 現在、八王子市で使用している教科用図書と比べてどうか」につきましては、資料のとおりです。

結びになりますが、今まで御説明させていただいたとおり、いずれの発行者もそれぞれ特長があり、資料作成委員会を初め各校からの資料でもおわかりいただいたと思いますが、評価が分かれるところがございます。教育委員の皆様には、本資料等をもとに御協議いただき、八王子の事情により適した教科用図書を御採択いただきますようお願いいたします。

以上で、算数部会の御説明を終わりにいたします。

- 小田原委員長　　ありがとうございました。算数についての御報告は以上ですが、ただいまの報告につきまして、御質疑ございましたらどうぞ。
- 金山委員　　すみません。よくわからないので御説明いただきたいのですが、標準時数に対して約10%少ない、また16%少ない時数で内容を扱うことができるということの意味なのですけれども、これは復習問題とか発展問題を含めてこれで終われる体制になっているということなののでしょうか。
- 鈴木教科別調査部会「算数」部長　　必ず教科書の中で指導内容として扱うものを全て扱ったとして想定しての時間数です。ですから、選択問題で、人によって扱う扱わないというものについては、除く時間数と考えます。
- 金山委員　　そうしましたときに、その10%は余裕になるだろうと思うのですが、それが多い少ないというのは、指導にとってどうなのでしょう。10%ぐらいであればちょうどいいのか、もう少し欲しいのかっていうところを教えてくださいたいです。
- 鈴木教科別調査部会「算数」部長　　多いのがいいのか、少ないのがいいのかっていうことについては、資料作成委員会では具体的な検討の中身にはなっておりません。ただ、多いか少ないかということの資料を作成したということです。
- 実際に、委員会の委員からは、余裕時数が多いほうが、問題によって扱う時間を長くすることも、子どもの様子を見ながら丁寧に指導することもできるという、そういう良さはあるという意見はありました。
- 小田原委員長　　調査の観点の「1 内容」のところの比較の中で、教育出版は学習内容が他社と比較して非常に多いという御指摘があったわけなのですが、よく考えてみると、東京都の研究資料の中にその数字が示されていますよね。圧倒的に多いのですが、精査していきますと、教科書会社が「発展」というようにマークしたところの数ですよ。「発展」「もっと発展」というものがあるのだけれども、それは「もっと発展」とあるところだけを東京都は数えているわけですよ。「発展」のところは数えていないわけで、その「発展」の中でも、「もっと発展」に入れたほうがいいと思われる中身もあるけれども、それはカウントされていないわけですね。だから、この数だけで言っているのかどうかっていうのは、私は疑問だと思っています。一方で、問題数を見れば、教育出版が一番少ないわけですよ。多いところに比べると半分ですね。
- もう一つの資料を見ると、問題数です。補充的な問題、小問の数というのを見ると、多いところは5, 336であるのに対して、教育出版はその約半分、2, 869なん

ですよ。これをどういうふうに見るかという、先ほどの逆転になってくるわけです。

扱うか、扱わないかというのは、それは補充とか発展の部分だから、担当者に任されていくわけですが、これが16%、10%の中での話だろうと私は見ているんですね。

そういうことを見ていくと、御報告にあったように、観点によってどういうふうになるか分かれるところだろうと思います。御指摘のとおりだろうと思っています。

○和田委員 演習問題等の数なのですが、この教科書以外に問題集といったものは使わないのですか。

○鈴木教科別調査部会「算数」部長 実際、各学校で、教員が必要に応じてプリントを作成したり、算数ドリル、計算ドリルの類のものを購入して児童に使わせるということはありません。

○和田委員 その点、ここに出されている練習問題や発展的な問題とかは、多い少ないが今、議論になっていますけど、実際には授業の中で全部やり終えているという認識ですか。やり終えられるという認識ですか。それとも、どの教科書会社のものであっても、やはりやり切れないものがある状態になっているのかどうか。その辺はいかがでしょうか。

○鈴木教科別調査部会「算数」部長 ドリルを購入して、それを補助的に使うということもありますが、教科書については、これは全部扱うと先ほどの説明にもございましたとおり、かなり厳しい状態です。今この教科書はまだ使っているわけではないのでわかりませんが、これだけの数、問題数があるということは多分、全部扱うとすると時数が足りなくなるかなということも考えられます。選択をして、子どもの個に応じた状況によって扱うというふうに考えています。

○和田委員 そうすると、基本的には問題集を使うというよりも、この教科書をきちんとやって、その中で選択しながら学級や児童の状況に応じて、練習問題を多くやったりしていくという、そういう取り扱いになるのでしょうか。

それで、もう一つは、算数の教科書というのは、テキスト的というか、記入する部分が増えているように思うのですが、今は教科書の中に書きこんでいくような、そういう授業形態というのは多くなっているのでしょうか。

というのは、会社によっては空欄のつくり方として、ブランクが非常に大きいものもあるし、ほんとに答えだけ書きこみなさいというような、そういうものもあるので

すが、教科書にほとんどを書きこむという状況で理解してよろしいですか。

○鈴木教科別調査部会「算数」部長 教科書によって、書きこむ欄が大変多く、種類も穴埋め、本の一部分と様々なのは、確かに御指摘のとおりだと思いますが、使い方についても、教員によって様々であるというのが実態だと思います。教科書に直接書き込ませる教員もいれば、教科書には書いてあるのだけれど、やっぱりノートに書くこと、ノートづくりを大切にしている教員もたくさんおりますので、書き込み欄に左右されないで授業を進めること、教科書をどう使っていくかという部分になると思います。

○小田原委員長 今の和田委員のお話でいえば、問題演習っていうんですか、プリントを使っていない教員はほとんどいないと、算数の場合は問題をプリントして、あるいはでき合いのプリントを使っていないというのは、まずないと言えますよね。

それをさらに同じ問題をさせるのではなくて、3枚とか4枚、準備をしておいて、習熟に応じて先に進めていくということは、同じ45分の中でも、3段階ぐらいに分けて進めているという先生もいると私は見えていますね。

それから、ノートづくりについては、算数の授業を見ていて、ノートをきちんとつくらせているかどうかで、力のつき方が違ってくと見えています。

先ほど説明があったように、各社がノートづくりを教科書の中で示していますけれども、私は教科書の中に書き込むのではなくて、ノートづくりをこういうふうにし示して、ノートをきちんとつくらせていく、しかも何月何日、今日の算数のポイントは何ですよと言って、それを教科書じゃなくてノートに書かせて、その課題も書かせる、そうした先生のやり方によって、児童の力のつけ方が違ってきているんじゃないかなと思います。

だから、教科書に書きこませるというのは、私はいいい教科書だとは思っていませんが、皆さんいかがでしょうかね。そのほか含めて、何かございましたらどうぞ。

○星山委員 2点ほどお伺いしたいのですが、もちろんだの教科書も、どの子にとっても使いやすいということが前提だと思うのですが、算数は特に見やすさであるとか、最低限わかっておいてほしいところが重要なのではないかなと個人的に思うのです。

つまり、その学年、その学年でどうしてもわかっておかないと、次の学年で困るだろうなっていう積み重ねが、算数では非常に重要だと思います。特に優しいところでつまずくお子さんが、個人的には多いかなという気もしていますので。

私も実は算数を教えているので、教科書の違いも割と感じてはいるのですが、例え

ば、1年生でブロック使うところがあるのですが、ブロックの記載の仕方が、出版社によってすごく違うなど個人的には感じます。いつもそこで教え方につまずく学生が多いので。ブロックっていうのは全部くっついて見えるか、きちんと離れて黒板に書けるかで、かなり1年生で教え方に差がつくなという個人的な印象があったものからです。

やはり若い先生が多い八王子の中で、教えやすさと言いますか、そういうところで、もしこの教科書のこういうところがいいんじゃないかといったものがあれば、参考に教えていただきたいです。具体的な事例もあれば。

それから、2点目も関連してるのですが、全部の科目で伺っているんですが、やはり八王子の子どもたちの算数と、それから今の先生方の御事情で、どの教科書が一番使いやすく、教えやすく、わかりやすいかということで、もし御意見が出ていたのであれば、もうちょっと踏み込んで教えていただけると参考にできるんですが、いかがでしょうか。

○鈴木教科別調査部会「算数」部長 1年生のブロックについての各発行者の表記の違いについては、特に作成委員会の中では話題にはあがりませんでした。手元に実物があって、操作できるものですので、特別表記の違いが大きく影響するものとはとらえていませんでした。

あと、2点目の御質問につきましては、資料を作成する段階で、若手が多いからとか、八王子の子どもの学力がどうだからということで資料を作成したわけではないので、その辺については特に意見は出ておりませんでした。

○小田原委員長 ということですが、そのブロックの問題は、ブロックがいいのかどうかという話にいくんですね。それで、ドット図については先ほどお話ございましたけれども、テープ図とかあるいはテープ図から数直線へというのが、私は流れだろうと思っています。

それから、数の固まりとかいうふうに発展させることを考えると、私はお金を使うのが一番いいだろうと思っています。1円が10円になって、10円が100円になっていくという、そういう流れをやるには、お金がいいだろうと思います。ただ、お金をそういうふうにするのは、お金に対する感覚として間違いなのかどうかかわらないけれども、おはじきだとか、あるいはブロックというのがやはり多いですね。

ブロックになると、先ほどの星山さんのような話になるから、僕は数直線に持って

いく形が算数としては大切なことではないかなとは思っています。

そういう話でいくと、何日か前に、学校教育部長と南大沢の子どもたちのオペレッタを見た後に、1足す1は2だけど、コップを2つ足したら、やっぱり2じゃなくて1なんじゃないかといった問いにどう答えるかという話題がありまして、それは非常に難しい算数、数学の話になっていくわけで、分数のところ、水1リットルとかの話があったときに、何等分かしたその何個分で何リットルになるかみたいなそういう小数とか分数の話があるわけなんだけれども、その1リットルを何等分かした何個分なんていう言い方っていうのは、僕は算数的ではないと思うのだけど、ここの微妙な違いをきちんと表現している会社とそうでない会社に分かれているだろうというふうに見ています。

それから、教員のレベルとか年齢とか、児童の差とかっていうのをあんまり考えなかったということで、私は、それはそれで一つの見識だろうというふうに見ています。では、子どもたちのレベルが低いから、あるいは教員の資質がちょっと不足しているからやさしい教科書でいいのかっていうと、そのレベルでとまってしまうっていうことがあるわけですから、高いレベルが求められるとすれば、教員の質を上げるような教科書の編集っていうのは求められるだろうと思うのですが、そこは余り考えなかったということですね。

そういう中で、先ほどの説明の中に、日常的な生活を題材としたかどうかということについては、各社配慮しているという話でしたが、今年も当然考えなきゃいけないことなんだけれども、前回の採用のときには、算数、数学的な活動というところがかなり観点の一つになったのですが、今回その点については、先ほどのように配慮しているというところで終わっています。今回は算数、数学的な活動ということについては特に考えませんでしたか。

○鈴木教科別調査部会「算数」部長 算数的活動の箇所については、東京都から示された資料にもございますように、何カ所それぞれの領域の算数的活動があるという資料もございまして、そこからもう参考にして確認しております。いずれの発行者も分量は十分にあるというふうにとらえています。

○小田原委員長 ほかに何かございませぬか。よろしいですか。では、特にないようございまして、算数は以上で終わります。どうもお疲れ様でした。

続いて、理科に移ります。理科の資料作成委員会から御報告を願います。

○西岡教科別調査部会「理科」部長 理科の教科別調査部会の部長を務めました第七小学校の校長、西岡利と申します。

○半田教科別調査部会「理科」副部長 同じく副部長を務めました陶鎔小学校校長、半田です。よろしくお願いいたします。

○西岡教科別調査部会「理科」部長 理科ですけど、信州教育出版社の見本本の配付がありませんでしたので、5社につきまして検討をいたしました。その調査結果について御報告いたします。報告につきましては、報告書の調査の観点に沿って説明いたします。

理科の学習では、自然事象が学習の対象ですので、観察実験を行い、問題解決の能力を育成するということが求められています。ですから、教科書におきましても、問題解決の学習の流れを重視して検討していきました。どの教科書も最初に目次がありまして、その後に「理科の学び方」というページがございます。そのページに書かれていることが、それぞれの単元の学習の問題解決の流れとなっています。

東京書籍では、このような形に問題解決の流れが示されていまして、「問題をつかもう」「問題」「予想しよう」「計画しよう」「観察実験」「結果」「考えよう」「まとめ」という8つの学習の流れになっています。その中で、事象提示を行うときに、「不思議をつかむ」、それから最後のまとめのところで「活用の場面」が設定されています。いろんな単元がございますけど、そのような形で進められています。

大日本図書におきましても、最初の目次の次のページに「理科の学び方」ということがございます。その中で特出しているのは、問題解決の資質、能力に視点が置かれていまして、5年生のものですが、「条件を整えて調べよう」ということで、条件制御について詳しく学ぶということが示されています。

問題解決の流れとしましては、「問題を見つける」「予想する」「調べ方を考える」「調べる」「結果を記録する」「結果を整理する」「わかったことをまとめる」ということで、その中で、問題解決で育てたい資質を丁寧に解説しています。理科が苦手な教員にとっては、理科の学習の進め方ということで、とても参考になると私は考えています。

それから、学校図書におきましても8項目、問題解決の流れが示されています。今までの2社と少し違うのですが、「見つけよう」「調べよう」「まとめよう」という大きな3つの活動を入れまして、その中で8項目、同じような形で問題解決について

示されています。

条件制御につきましても、5年生の場合ですが、そこに条件に目を向けて調べていきましょうということで、示されています。

教育出版におきましても、他社と同じように、最初のページで問題解決の流れが示されています。その中で、表現の形が違いまして、キャラクターで、鉄腕アトムを使っています。その中で「やってみよう」、問題については「はてな」という言葉を使っています。そして、「予想しよう」「計画しよう」「調べよう」「結果から考えよう」「わかった」という形で、学習が進められています。

それから、啓林館につきましても、同じような形で示されています。「見つけよう」「計画しよう」「調べよう」「振り返ろう」の中で、「問題を見つけよう」「予想しよう」「計画を立てよう」「観察しよう」「実験しよう」「記録しよう」「観察しよう」「まとめよう」「広げよう」という形に示されています。

その中で、予想につきましては言語活動に視点を置きまして、予想したことを話し合うといった内容が、それぞれの教科書で吹き出し等によって入っています。それが、必要以上に入っているということではないのですが、そこに示されていることが、子どもたちにとって予想の指針にはなりませんけれども、それをまねてしまって思考しないという部分も考えられます。

続きまして、調査の観点の「1 内容」の「(2) 児童の発達段階における配慮がされているか」につきましては、どの教科書もそれぞれの学年進行で発達段階について配慮されています。その中で、この5年生の教科書なのですが、単元の配列で振り子の学習がございまして、振り子はやはり定量的に実験をして、データをまとめて、解釈して、判断するという学習ですけれども、算数の学習で平均の学習がございまして、その平均を理科でも活用するというので、その学習が1学期に振り子の単元が入っていると、算数の学習と重なってしまう、または算数の平均の学習をしないまま理科の学習をしてしまうことが考えられます。

2社ですね。学校図書と教育出版社は、1学期に振り子の学習が入っていたので、算数の教科書の配列によっては時期を変更しなくてはならないということが考えられます。

続きまして、「(3) 各学年にわたる内容の取り扱いに対する配慮がされているか」ですけど、八王子市はとても自然が豊かで、理科の学習にとっては非常に適した

環境にあります。その中で、なかなか直接体験することが難しいと考えられます川の働きについて、単元の中を通して少し説明させていただきます。

東京書籍では、上流と下流の比較の写真をこのような形で載せており、上流と下流で最初の事象を提示して、ここから問題をつくって進むという学習の形になっております。学習を進める中で、実際に川に行つて観察する場面が取り上げてあります。

それから、大日本図書の場合は、普段の川の流れの様子と洪水時の流れの2つの写真がありまして、それを比較して問題をつくるという形になっております。その中で、川の運搬の働きにつきまして、このような形で、直接川に入って実験、観察するところが取り上げられています。

それから、学校図書につきましては、川の写真が取り上げられていまして、その川底を予想したような絵の形で示されて、これが事象提示で最初の学習に入っています。川での実習につきましても扱ってありまして、その中でこのような形で写真が入っています。

大日本図書の場合は、ライフジャケットを使用して川に入っていましたけど、この場合は使っていませんので、少し安全への配慮が欠けているかなと思いました。こちらの写真では、子どもが素足で川に入っていることもわかります。子どもたちは、どうしても視覚から情報から得て、安全に対するの感覚を身につけていくことが考えられますので、これも安全への配慮が欠けているかなとは感じます。

続きまして、教育出版社は、大日本図書と同じように、平常時と洪水時の写真を比較して、最初の学習が進められています。ただ、洪水時の写真は少し小さく、同じような形では示されていません。また、川での実習については、掲載されていません。

啓林館につきましては、四万十川のとても美しい写真なのですが、蛇行した写真1枚で事象提示をするという形になっています。川での実習については、取り上げられていません。

なぜこの単元を取り上げて説明していたかと言いますと、最初に申し上げましたが、八王子にはとても多くの川があります。なかなか川で実習することは難しいのですが、川の近くにある学校では、ぜひそういう体験を通して、子どもたちを学ばせてほしいと考えています。

実際に、八王子の学校ではそのような形で実習を行っている学校があります。もちろん学校だけではできないところは、団体等の力を借りて、ライフジャケットを着用

した形で行っていますので、ぜひそういうことも教科書を選定するときには考慮すべきだなと思っております。

続きまして、「(4) 関心、意欲を引き出す配慮があるか」、それから「(5) 発展的な学習に対する取り扱いが適切であるか」につきましては、それぞれの教科書で、配慮がなされ、適切に掲載されていました。

調査の観点「2 構成及び分量」につきまして説明いたします。

「(1) 内容は全体として系統的、発展的に構成されているか」についてですけれども、どの教科書もそれぞれの学年で行ったことをまとめまして、次の学年への指針等を巻末で表現しています。

小中連携につきましては、東京書籍では巻末の「たくさんの発見をしたね」の中で、それぞれの領域と中学校での単元名を紹介しています。

大日本図書では、同じように巻末で「中学生になったら」っていうことで、単元名とそれから簡単な内容を紹介していました。

学校図書では、巻末の「もうすぐ中学生」っていうコラムで、単元名とコメントを紹介していました。

教育出版では、同じように巻末の「中学校で学ぶこと」で、小学校での学習と関連した単元とその内容について紹介しています。

啓林館につきましては、中学生に向けてのコメントのみで、単元名等は紹介してありませんでした。

分量についての配慮については、それぞれ学年に合った分量であると報告させていただきます。ただ、ページ数につきましては、啓林館には今回別冊で「理科プラス」というものがあります。ですから3年生から4年生の教科書で、東京都の調査では972ページと大変多くなっています。次が教育出版で806ページになっています。

ただ、内容の分量につきまして、その調査結果では、東京書籍が388ページ、大日本図서가375ページ、学校図서가361ページ、教育出版が342ページ、啓林館が382ページになっています。東京書籍が一番多いページ数になっております。

その中で観察・実験を取り上げている箇所につきましては、東京書籍が39カ所、大日本図서가71カ所、学校図서가67カ所、教育出版が59カ所、啓林館が55カ所の報告がありますので、ページ数とその内容の取り扱いについては同じように考え

られないということが、この調査結果から言えると思います。

それから、基礎的事項や補充教材・発展教材につきましては、同じく東京都の調査で、東京書籍が30カ所、大日本図書が59カ所、学校図書が39カ所、教育出版が46カ所、啓林館が90カ所となっています。

その発展的な補充教材の中の3年生の昆虫の学習で、八王子市は養蚕の歴史がありますので、カイコガについて扱っている教科書は、東京書籍以外の4社が扱っていません。モンシロチョウの飼育でそれぞれ学習を進めている内容になっていますが、なかなかモンシロチョウを飼育するということを子ども一人一人が行うというのは難しいですので、ぜひカイコガを八王子の子どもたちには飼育して学習に扱えるようにしていったらどうかという意見が出ていました。小学校教育研究会の八王子の理科部でもカイコの卵を配付して、そのような活動ができるようにしています。

調査の観点「3表記及び表現」につきましては、各社、読みやすい表現になっています。それから、印刷・写真なども見やすい表現になっていますけれど、6年生の教育出版の人体の絵と動物の臓器を紹介しているイカの写真に抵抗がある子どもがいるのではないかという意見がございました。

使用上の便宜につきましては、それぞれ全体の構成が見通せる配慮がされています。問題解決に向けての学習への配慮としましては、実験器具の取り扱いについて5年生で水溶液の学習がありまして、メスシリンダーを使って水を定量的にはかる技能を習熟する場面がございます。そのメスシリンダーの扱い方について、大日本図書、学校図書、教育出版、啓林館は、その単元の中の学習のところで扱っています。東京書籍につきましては、巻末の資料で扱っています。理科の苦手な教員にとっては、その単元の中のページの中で掲載されているほうが効果的だと考えられます。

それから、印刷・装丁についての配慮につきましては、どの教科書もとてもしっかりとしたつくりになっております。

地域性への配慮につきましては、そちらのほうの報告書にありますけれど、4年生の「季節と生物」では、その写真につきまして、東京書籍は福島県、大日本図書は横浜市、それから学校図書では埼玉県の写真、教育出版では広島県、啓林館では大阪府の写真が中心に掲載されていました。

それから、「流れる水のはたらき」では、東京書籍が多摩川の写真が掲載されています。それから、大日本図書では浅川での写真・多摩川の写真、それから6年生の

「生物と地球の環境」の単元では高尾山の写真が掲載されております。それから、4年生の「自然の中の水のゆくえ」では、八王子市の学校の校庭が写真として掲載されておりました。それから、教育出版では「流れる水のはたらき」で多摩川の写真が掲載されています。それから、6年生の資料で、ハチオウジゾウの牙の写真が掲載されています。それから、啓林館では同じように4年生の「自然の中の水のゆくえ」では、八王子市の学校の校庭の写真が掲載されておりました。それから、6年生の資料で教育出版と同じように、ハチオウジゾウの牙の写真が掲載されておりました。

では最後に、総合所見について、御説明いたします。

どの教科書も学習が進められるように配慮されています。その中で書き込みが多くなっているのが教育出版、学習図書です。言語活動を充実させるという観点から、書き込みについては答えが1つだけしか書き込むことはできませんので、ノートを活用することがやはり大切であるという意見が多くありました。その中で気づいたこと、考えたことをランダムにいろいろノートに表現するということが必要ではないかという意見がありました。

それから、現在使われている教科用図書と比べてどうかというところですが、現在は大日本図書を使っております。その大日本図書と比べてどうかというところですが、実験器具で今使っているものと違うものが使われているものがありました。

東京書籍では、「ものと重さ」で、台はかりを使用しています。それから、「季節と生物」ではヘチマを栽培しておりました。大日本図書では、今使っているもので同じです。「季節と生物」では、ツルレイシを栽培しています。環境保全の関係から、グリーンカーテン等で活用できます。学校図書では、水の三態変化の学習で丸底フラスコを使用しています。教育出版ではヘチマを栽培しまして、水の沸騰は現在使っている大日本図書と同じようにピーカーを使用しています。それから、啓林館では、水の三態変化では丸底フラスコを使っています。

あと安全面につきましては、それぞれの会社で配慮がされていて、注意書き等が適切に掲載されておりました。ただ、保護眼鏡の使用につきましては、会社によって、子どもが写真の中で眼鏡をしている写真が載っているものと、ただ保護眼鏡の写真だけが載っているという違いがございました。

八王子市は本当に自然豊かな地域ですので、理科の学習を通して子どもたちの問題解決の能力を育て、理科が大好きな子どもたちを育てるような、そういう教科書を選

定して学習を深めていけたらと考えています。

以上で、説明を終了いたします。

○小田原委員長　　ありがとうございました。

「理科」の報告については以上ということですが、ただいまの報告について、御質疑がございましたらどうぞ。

○坂倉教育長　　啓林館の「わくわく理科プラス」をどう評価するかというのは、すごく大きな点かなと個人的には思っています。恐らく、これを別冊にしたのは2つの意味があると思うんです。

啓林館の巻末を見ると、保護者への働きかけ、この学年の理科というのはどんなものかというところからすると、一つには、家庭学習につなげていきたいということがすごく大きくあると思っています。

もう一点は、恐らく、これを教科書に準じて教科書化して一緒に組んで別冊にしたということは、保護者負担の軽減というものを大きく狙っているのかなというふうに思っていて、そういう意味では今言われている家庭学習の力が弱まったこと、それから所得格差あたりに思い切った挑戦をしていると思うんです。

そういう中で具体的に聞きたいのですが、その狙いが今の八王子の先生方の中で素直に生きるかどうかと言ったら、一つはこれを入れたからといって副教材が全くなるとは思わないのですが、少なくとも保護者負担の軽減というあたりにつながるかどうかということと、それから家庭学習の親へのつなぎ、その辺のところが生きるかどうか、現場としてどう思うのかをお聞かせください。

○西岡教科別調査部会「理科」部長　　別冊の内容としますと、子どもたちが書き込みをして学習を振り返ったり、定着させるというところで使えると思います。ただ、理科の学習としましては、やはり自然事象に直接体験を通して学んでいくということは大切ですので、またこういう基礎的・基本的な事項につきましては定着を図るということは十分効果があると考えます。

ただ、保護者負担の軽減という形で、これが本当に必要なかどうかというところでは「あるほうがよい」という考えの意見と、そうでなくて「必要ないのではないかな」という、そういう意見で分かれています。私、個人的な意見としましては、子どもたちが使ったノートをもとに家で復習するとか親子で自然体験をするとか、こういうことを大切にしていけたらなと考えています。

以上です。

○小田原委員長 学校を回ると、先生方がシートというんですか、補助プリント、実験なら実験、観察なら観察で絵も描かせたりするプリントをつくらせてノートに張らせたり、あるいはファイリングさせたりすることが多く見られますよね。だから、今のお話はそういうのを重視して、余り別冊は使いたくないということなんでしょうか。

○西岡教科別調査部会「理科」部長 使いたくないということではございません。ただ、それは家庭学習等で使いますので、家庭のほうで一度「こんな学習をしている」ということを親子で学習してくださいと、そういう啓発をすることには効果があると考えています。

ただ、こういう言語で全て行っているものですが、言語活動の充実が重視されている中で、非言語の活動というのも重視すべきだと考えています。事象に対して黙ってじっくり観察する、実験をじっくり観察しながら行う、それを理解したことを言語化して自分でノートをつくる、そういうことも非常に子どもにとっては能力を高めることになると考えています。

○小田原委員長 今の御説明の中では、観察をじっくり観察させるということなんです、子どもたちの観察した結果が教科書の中にも出てくるわけなんです。それを私、スケッチと呼んでいるわけですが、そのスケッチの仕方が非常に丁寧なところと、いい加減というかな、そういう絵が描かれているのをそのまま載せているところもあるんですが、そこら辺は何か話題になりましたか。例えば、ハウセンカの絵があるんですけど、これがハウセンカの絵かなと思うようなものもあるわけですよね。そういうところはいかがですか。

○西岡教科別調査部会「理科」部長 特に、話題にはなりません。ただ、それはそういう形で描く例として示されていますので、上手に描くとかそういうことではなくて、見たこと、気づいたことをしっかり描くという形でやはり指導すべきではないかなと考えております。

○小田原委員長 その他いかがですか。

○和田委員 理科の教科書って本当に内容が豊かになって見やすくなって、情報量も多くなってきたなという感じがしているわけなんですけれども、これだけページの中に入ってくるような情報が入ってきたときに、先生方が授業の中でこれをどこまで扱えるのかなという疑問が逆に出てきているんです。

どの教科でも同じなのですが、児童が学習の流れを理解する、今何をしているのか、特に観察とか実験であれば、その目的であるとか手段であるとか、そういったものをきちんと理解しながら進めていくという、そういう学習課程を大事にするような教科書であってほしいなと思っているんです。解説が余りにも多かったり、情報が余りにも多くて、中には、文字の種類を変えながら、文字量をもの凄い多く示しているようなところも見られるわけで、説明し切ってしまう。

また、流れを理解させなければいけないのだけれども、全ての情報を与え、答えも明示されているようなやり方をしていると、最終的に途中経過が抜きになってしまって、最後に飛んでいって「答えだけ知っていきいだろう」ということにもなってきます。なかなかその辺のページ構成であるとか学習の進め方というのは難しいなというふうに思うんです。これだけの情報量というのは、やっぱり必要なものなのか。どの会社も非常に多くなってきているわけなのですが、率直なところどうなのでしょう。

○半田教科別調査部会「理科」副部長 必要であるということはないと思うのですが、子どもたちに豊かな発想をさせるという意味で、いろいろな場面を提示する、そこに各社苦心しているのかなというふうには感じています。でも予想するという段階を大切にしたいと思いますので、余り丁寧にいろいろな場面が先の先までわかるような、そういう提示の仕方は好ましくないというふうに考えています。

○小田原委員長 例えば、モンシロチョウの話がありましたが、アサガオとかヘチマとか何でもいいたろうと思うのだけれども、このカイコガを飼わせるというのは先ほどのような観点があるということだったんですが、今、蚕糸試験場というのはどこにあるんですか。カイコの卵っていうのは、どこから仕入れるわけですか。

○西岡教科別調査部会「理科」部長 立川に以前ございまして、そこからいただいているのではないかと思いますけれど、幾つか何か道筋があるようです。

○小田原委員長 桑の葉はどうするんですか。農家と契約するとか、各学校が探してくるわけですか。

○西岡教科別調査部会「理科」部長 本校の場合は校内に桑の木がございまして、それを活用しています。あとは畑で育てているところからいただいたりしていると思います。

○小田原委員長 啓林館は、カイコガがどこに載っていましたか。

○西岡教科別調査部会「理科」部長 3年生です。

○小田原委員長 そういう例で言えば、フラスコなのかビーカーなのか、これもよくわからないところなんですよね。5年生の温まり方で言えば、試験管がいいのかフラスコがいいのかっていう、そういう話にもなっていくと思うんです。私は、もうどちらでも構わないと思っているんですけども、現場としてはやっぱりやりやすさというのはあるんですか。やりやすさ、やりにくさ、あるいは、もったきちんとするには試験管じゃないほうがいいのかっていうのはあるんですか。

○西岡教科別調査部会「理科」部長 その物の値段にもよりますが、フラスコはやはり高価になりますので、ビーカーのほうが扱いやすいということが考えられます。ただ、水の沸騰の場面ではフラスコのほうが口が狭くなっていますので、温度変化としてはいい結果が出ます。ビーカーの場合にはアルミホイルで蓋をして、なるべく100度近くに沸点を持っていけるようにはしています。

ただ、アルミホイルを使っていない会社もございましたので、その場合は沸点が96度ぐらいで終わってしまうのかなという結果が出ています。

○小田原委員長 先ほどの和田委員の情報量の多さということはやっぱり気になる場所ですけど、例えば心臓を出すのがいいのかどうかっていう問題があるんですけども、6年生の心臓の図は各社で全部違うわけなんですけど、心臓から出ていく血管、心臓に入ってくる血管の数が各社まちまちなんですよね。そういうのはどうでなければいけないかって、そんな違いがあっても構わないのかっていう、そんなのは出ていくのと入ってくるのがわかればいいんだというふうになるのかっていうのは、そこら辺も先ほどの情報量の点でいえば言えるんですか。

○西岡教科別調査部会「理科」部長 子どもたち全体にとっては、循環器に関しては、心臓がポンプの役目をして、血液が体をめぐって戻ってきてということが理解できれば、小学校の段階では目標は達成していると考えます。ですが、もう少し詳しく、子どもが「知りたい、発展的に」と、そういうお子さんがいる場合には特別に図鑑とかの資料もありますので、そういうところで調べればいいのかと考えています。

○小田原委員長 今、発展という言葉がございましたけれども、発展的という言葉で言えば、発展的内容、それから発展学習、それから発展教材という3種類にこの報告書では分けられているんですけど、その違いというのはどういうことになるんですか。

つまり、先ほどのカイコガのところでは、大日本図書では発展的教材としてカ

イコガが出てくるわけですが、学校図書でいうと発展学習としての延長でカイコガが出てくるんですね。だから、そこには違いがあるのか、違う先生が見たのか。教育出版は発展学習だけれども、啓林館は発展教材とずれているのです。人が違うからこうなってしまったのか。同じことを言っているのか、違うことを言っているのか。

○半田教科別調査部会「理科」副部長　人が違うからという事情は確かにあるんですけども、発展学習というと、その学習をさらに発展したということになりますし、発展教材というと、教材そのものをモンシロチョウから、さらにカイコガに発展させるということが言えると思います。ただ、そこまで明確にしてこれを作成したかという、ちょっとあやふやな点があって申しわけありません。

○小田原委員長　電子天びんがいいのか上皿でんびんがいいのかなんて、よくわからないのだけれども、八王子市立の小学校には電子天びんはあるのですか。

○西岡教科別調査部会「理科」部長　はい。

○小田原委員長　それじゃ、大日本図書も大丈夫だということにはなるんですね。

○星山委員　理科は教える先生側にすると、得意の方と苦手な方とに割と分かれるかなと思うんです。情報量がたくさんあるものから、どちらかというと非常に専門性が高い方向きのものというか、お子さんにとってもそうですけれど、大好きな子ほもっと知りたくて読みたい教科書とわかりやすい教科書、情報量も絞ってあるような観点から見ると、私もいろんな授業を拝見するんですけど、例えばモンシロチョウ1つ教えるのも、子どもに考えさせたり想像させたりせず、「どうなっていたっけ」といった発問しないで、全部説明される方もいらっしゃれば、イメージさせておいて「自分で描いてみて、じゃ教科書を開いて比べてみよう」といった授業をされる方もいらっしゃいます。やっぱり先生の力量一つかなという気がどうしてもするんですが、その辺のところではどうでしょうか。

正直なところというか、教える力ということから考えると、八王子の先生方にはどのあたりが一番いいかなとか、そんなお話は出なかったでしょうか。

○半田教科別調査部会「理科」副部長　八王子の場合には大変若い先生が多いので、授業力ということには少し不安があるかもしれないのですが、やはり情報量が余りにも多いと、どこから手をつけていいのかと、そういう部分もあると思います。それよりは学習の流れがしっかり書いてあるということ、問題解決の流れが「この次が問題提示で、それから予想があって実験があって、それから考察がある」という流れがしっか

りと書かれている教科書というのは、先生としても教えやすいかなというふうには思っています。

子どものぱっとしたつぶやきとか発見、それを拾い上げる教員ということを目指しているのですが、最近の子どもはゲームなどで室内にすることが多いからか、自然事象自体への気づきが非常に乏しいという話は教員の中から出ています。その部分を補う形の教科書になっているということはあるかなとも思います。余り多過ぎてもいけないし、子どもの考えを制約してもいけない、非常に難しいところだと思っております。

○星山委員 わかりました。

○小田原委員長 ということでございますが、他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 では、理科のほうは特にないようですので、以上で終わりたいと思います。どうもお疲れ様でした。

○坂倉教育長 委員長、開会してから2時間ほど経過しましたので、ここで一旦少し休憩を取りませんか。

○小田原委員長 ということですが、長時間にわたっていますので、5分ほど休憩をとりたいと思いますけれども、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長 では、5分間休憩をとりたいと思います。

再開は、10時50分ごろにしたいと思います。

〔午前10時45分休憩〕

〔午前10時50分再開〕

○小田原委員長 それでは、休憩前に引き続いて再開いたします。

続いては、「図画工作」について、資料作成委員会から御報告願います。

○飯澤教科別調査部会「図画工作」部長 それでは、図画工作の調査部会部長をさせていただきます船田小学校校長、飯澤と申します。

○白石教科別調査部会「図画工作」副部長 同じく副部長をさせていただきます由井第三小学校校長の白石でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○飯澤教科別調査部会「図画工作」部長 現在は開隆堂出版の教科書を使用しております。

それでは、報告書の順番で開隆堂出版から説明をさせていただきます。

1・2年生の上の中でまずは説明させていただきますけれども、5ページのマークについて説明をしたいと思います。

図画工作で大切にしたいことということで、3つのマークの用意をしています。

「試してみたり見つけたり考えたりして思いつく力」もう一つが「形や色、方法や材料を工夫する力」もう一つが「心を開いて楽しく活動し、友達とかかわり協力し合う力」このマークが全ての題材の先頭にありまして、この題材で何を大切にしたいかということ子どもと教師がともにわかりやすいようにしてあります。

その次が、これはどの学年にも共通しているものとしてお話ししますが、6ページ、7ページに「夢を形に」というページがございます。これは作家が自分の言葉で伝えているものですが、作品も各発達段階にあわせた、1年生には1年生に親しみのある作家の作品が提示されております。

続きまして、40ページ、41ページになりますけれども、「みんなのギャラリー」というところで、これは郷土玩具ですとか地域のいろいろな遊びを通したものの紹介になっております。子どもたち自身が生活の中で美術に触れるということを示しております。

続きまして、42ページ、43ページは、「パレットコーナー」これも各学年にあわせた描画材料についての説明があります。

次に、44ページ、45ページには、道具について記述がしてあります。このような形で、どの学年にも共通したものが特設ページとして紹介されています。

また、題材については、次に説明いたします日本文教出版とほぼ同じ程度の題材数が用意されています。ただ現在、低学年が70時間、中学年が60時間、高学年が50時間という授業時数ですので、ここに提示されている題材数全部ができる時間は到底ございませんので、この中から先生がある程度選択をして子どもたちに授業として展開をしていくということになると思いますけれども、題材の配置ですとかそういうところも、ほぼ日本文教出版と変わりがないかなと思っております。

開隆堂出版について1つだけお話ししておきたいことがあるのですが、裏表紙のところにカラーユニバーサルデザイン機構の認証をとっているということで、そのマークが示されています。バリアフリーユニバーサルデザイン推進というのは内閣府で進

めている政策で、平成22年度に、この機構が総理大臣表彰を受けております。日本では唯一になるのですが、ユニバーサルデザインのカラーについて特化をしているいろんな公共的なものについて認証をしていくというような団体になっております。図画工作は2社ですが、カラーユニバーサルデザイン認証をとっているのは開隆堂出版になります。明らかな相違点としてお示しできるものかなというふうに思っております。

色覚でお困りの方は全国で300万人ほどいらっしゃるということですが、今は視覚検査、昔は色盲検査と言っていましたけれども、それが無い状態です。私も図工の授業を25年間ほどしていたんですが、どうも混色をしていて全くあり得ないような色をつくり出していく子どもたちが何人かいたので、保護者とお話をさせていただいたことがありますが、絵の指導をしていて子どもが色覚特性を持っていたということがわかったことはありました。そういうお子さんが20人に1人いると言われておりますので、そういう配慮もこれからは大事なかなと思っております。

続きまして、日本文教出版の説明に入らせていただきます。同じく最初の目次のところなんですけれども、マークが用意されております。

まずは「学習のめあて」というところで4つのマークがありまして、それぞれの題材にこのマークが必ず示されております。そして、アンダーラインが引いてありますので、そこを主に大切にすることによってこの教科書がつくられております。その下のマークが、学習指導要領で領域が表現と鑑賞の2つになっておりますが、その表現のほうの造形遊び・絵・立体工作、そして鑑賞のほうの鑑賞、この5つに分けてそれぞれの題材の内容をお示ししております。

そのページをめくりますと、「たのしいな おもしろいな」というページがございます。これが低学年の場合は表紙に書いてあるのですが、「たのしいな おもしろいな」という、これがそのままページになっておりまして、まず色や形に興味・関心を持って図画工作が大好きな子どもたちをつくろうということだと思えます。

その次のページの6・7ページが、「教科書美術館」、これも学年で通して設けられているページです。これも作家のものですけれども、非常に親しみのある作品を提示してあります。それぞれの発達段階にぴったり合ったものが用意されているのかなというふうに感じております。

その次の50ページ、51ページになりますけれども、「造形の森」というのがございます。これも各学年に共通したのですが、今度は美術作品というよりも自然の

ものとか、その中で非常に美しいもの、そういうものを見て感じて考えるということで、そういうページを設けております。

その次が、材料と用具ということで、この日本文教出版の特徴ですけれども、6ページにわたって描画材料、あと用具の材料についての記述がございます。この辺に力を入れてきたのだなということがわかります。

最後になりますが、私のほうで気がついた点でつけ加えさせていただきます。3・4年生の下なのですが、30ページの左下のほうになります。島根県なのですが、松江市の産業振興課に連絡をとって確認したのですが、やはり「松江姉様」ということなので、ここの記述は誤りだと思います。また確認はしておきたいなと思います。

説明は、以上です。

○小田原委員長 「図画工作」の委員会からの報告は終わりました。

この報告につきまして、何か御質疑、御意見がございましたらどうぞ。

○坂倉教育長 結構、作り手の意図がはっきりしているというふうに思いました。開隆堂出版のほうは、「夢をかたちに」という形で現代アーティストのメッセージを入れてきていますよね。そのかわり歴史的な作品は開いてすぐのページに幾つかあるけれど、余りない。

一方で、日本文教出版のほうは、藤田嗣治とかピカソの「ゲルニカ」等も入っていますし、それから後ろのところの表記も一応鑑賞の部分があるんですが、その辺のところの議論はどうだったのでしょうか。どちらかというところ、開隆堂出版は特に小学生なので、自分たちがいろいろな物をつくるかそういうところに力を入れている一方で、いわゆる名作とか鑑賞とかその辺のところはやや弱いかなと思いました。一方、日本文教出版は鑑賞のあたりは少し力を入れているのですが、その辺のところの議論は何かはなかったですか。

○飯澤教科別調査部会「図画工作」部長 御指摘のとおり、総合所見のところに記述があるのですが、開隆堂出版のほうは、(1)の下の方に学習「支援」の様子が見られると。日本文教出版については、学習「指導」の要素が見られると。これについて話し合いがありました。

つまり、教科書というのをどんなふうにするかが大きな問題になると思いますけれども、日本文教出版のほうは確かに御指摘のとおり、教員がきちんと指導していくと

いう意味ではある意味で非常にマニュアル的にきちんとされていますので、そういう指導には非常にいいのかもしれませんが。逆に開隆堂出版のほうは、支援というような形で余り指導を強くするのではなく、子ども自身がみずから発想を広げていくことを大事にしていくと。そういう支援に徹するという意味では、そういった編集の意図があったのではないかなというような話し合いはありました。

もう一点、つけ加えさせていただきますと、日本文教出版にだけ中学校の記述がございました。5・6年生の記述で6年の教科書の48・49ページです。「中学校へ向かって」ということで、中学生ではこんなことをしていく、こういうつながりがあるんだよというページがございました。これは日本文教出版の教科書だけに見られたものです。そういう意味でも、先ほどの教育長の御指摘のように、指導というものがかなり強くなっているのかなというふうに思っております。

それと鑑賞についてお話ししますと、6年生の教科書の最初のところですけども、同じ題材が扱われています。風神雷神の図です。これは開隆堂出版の6年生にも同じものが出ているのですが、先ほど話をさせていただいたカラーユニバーサルデザインのこと、紙と印刷についてかなり配慮したということです。こういう参考作品を見比べますと、色調は日本文教出版のほうが鮮やかなので、これもどちらをとるかということになろうかと思えます。カラーユニバーサルデザインの認証マークを得るために、多少ざらざら感といいますか、それを落としてマット調にしたというところで、このような感じになったと私は聞いております。そんな違いがございます。

○和田委員　これは音楽のところでも同じ質問をしているんですけども、この調査報告の中の最後のところに書かれているように、現在使用している教科書については当然題材等に慣れていて違和感がないという表現になるし、今度は右側の日本文教出版になれば題材に新鮮味がありというような、そういう扱いになりますよね。

先ほどの説明で行くと、題材の選択については全部取り扱うというよりも、その中から担当の教員が選択をして扱うという説明があったわけです。そういった観点で行くと、教科書が変わるということによって新鮮味が出てきたりとか、新しい題材への発展というか、そういうもので広がる可能性とともに、逆に今まであったもののほうが何か先生方にとっては指導しやすいとか、そういう扱いやすさと、それからさらに勉強して新しいものに発展させて子どもたちに伝えていきたいという、その辺の兼ね合いが大きく違ってくるのではないかなというのがあるんですけども、教科書が変わるこ

とによって学校現場に混乱を生じさせる可能性はありますか。

○飯澤教科別調査部会「図画工作」部長　その点については、私は十何年ここにいますが、それまではずっと日本文教出版の教科書だったんですが、4年前の22年度に開隆堂に変わりました。それから、4年間使われてきたわけですが、一つは、それによって日本で見せる系図ですとかポスターのようなもの、それが一つの財産になっているのかなと、私は思っているんです。

ここでまた変わると、変わることによって、今までの題材がまた変わりますよね。そうすると、そういった今までの財産といいますか、それがちょっと無駄になる部分も出てくるかなと。全てが無駄だとは思いませんけれども、開隆堂に4年前に変わったものですから、ここで少し続いてもいいのかなというのは、これは全くの私見ですが、そんなふうに私は思っております。

それともう一点、これは図工の専科から借りてきた指導書ですが、ここでは全くあらわれてこないものですから、ちょっと説明させていただきますと、私個人で思うことですけれども、開隆堂出版の指導書が非常に充実をしていると私は感じております。

私は、3年時の図画工作の教員の指導に当たっており、昨年度は10名以上いて、全部授業を見ながら話をするのですが、必ず「まず、3年間は教科書を使いなさい」と言っています。図工の先生は余り教科書を使わない方がいらっしゃるものですから。それは何かというと、この指導書にしっかり書いてあるんです。この指導書がしっかりできているものですから、まずは指導書を読んで、教科書だけではなかなかやっばり指導し切れない部分があるものですから、必ずその指導書に目を通して準備をして、それで授業をなさいと指導しております。そういう意味でも、開隆堂出版の指導書はしっかりできているかなというふうには思っております。

○和田委員　指導書については、私どもは調査対象にしておりませんので、そのことをこの場で発言されても、私どもは判断のしようがないんです。ですから、その指導書についてはちょっと置いていただきたいと思っております。

○白石教科別調査部会「図画工作」副部長　この採択の機会で八王子市内の図画工作の教員が教科書の調査に入ったわけですが、やはり本校にも若手の2年時の教員がいます。どちらかの教科書を使うことにはなるんですけれども、今回のこの機会ですら2社の教科用図書を見比べることによって、教職員がいろいろな題材が豊富にあるという認識を持てたという点では良かったと思っております。調査部会でもそのような話

題が出ておりました、「新鮮味がある」という、この文言についてはそういうことだというふうに認識しております。

- 小田原委員長 指導書について触れられていたんだけど、私は、指導書は使うなという主義ですので、そういうことを言われると大変困るんですが、指導書はここでは取り扱わないということでお願いします。

教科書について、いかがですか。

先ほども触れたと思いますけれども、造形教育の視点と図工美術教育の視点ということがあるわけですが、これは例えば国語では大昔に文学教育か生活綴方かといったような論争があったわけなんですけれども、そういうのは消えていますよね。ところが、この美術の、あるいは図工の世界ではこういうのがまだ残っているわけですか。残っているというのか、それが違いとなって学校現場でもそういう流れの潮みみたいなのが変わった形であるわけですか。

- 白石教科別調査部会「図画工作」副部長 学習指導要領が改訂されまして、前回の学習指導要領と大きく変わってきたと私は思っているんですけども、現在は「造形遊び」といって、子ども自身が材料から発想を広げる、あるいは場所から発想を広げる、つまり、教師の強い指導ではなく、子ども自身が発想を広げていくことを大事にする、この造形遊びが今の図画工作科の中心的な内容であるというふうに、この学習指導要領には載っております。そういう意味ではどちらかというと、指導か支援かということは、もう明らかに出版社の編集意図になると思います。全体の流れがどうということではないというふうに、私は理解をしております。

- 小田原委員長 図工の先生が教科書を余り使わないというお話もあったんですけども、それはそれとして、他にございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 小田原委員長 それでは、特にないようですので、「図画工作」は以上ということで終わりにしたいと思います。お疲れ様でした。

それでは、最後になりました「家庭」をお願いしたいと思います。

- 原市教科別調査部会「家庭」部長 家庭科の調査部会の部長をさせていただいております恩方第二小学校の原市でございます。よろしく願いいたします。

- 土屋教科別調査部会「家庭」副部長 同じく副部長をさせていただいております横山第二小学校の土屋でございます。よろしく願い申し上げます。

○原市教科別調査部会「家庭」部長　それでは、説明をさせていただきます。

まず、東京書籍から御説明をいたします。

内容については、児童の発達段階に応じて段階的な題材の配列となっております。例えば、5年生で野菜や卵をゆでる調理を体験させて、6年生で献立を工夫した1食分の食事をつくる。また、「家庭生活と家族を見つめよう」から、6年生では家族の一員として、地域とのつながり、家庭や地域でできることを学ばせる。2学年にわたって平易なものから、より高度なものへと発展していくような配慮がなされております。

興味・関心への配慮に関しては、これは表記・表現とも重なりますが、「わが家にズームイン」、それから「ひと針に心をこめて」など、単元のタイトルに一工夫がなされております。これはこのタイトルを見て、子どもたちは興味を引くのではないかなというふうに考えます。

使用上の便宜については、「見つめる」「計画し、活動する」「生活に生かす」という3段階の活動でどの単元も構成されています。これによって、児童の主体的な学習への取り組みがなされるように工夫されているというふうに思います。また、この段階的な学習によって、課題発見や課題解決に向けた学習がよりスムーズに進められるのではないかと考えます。

日本の伝統的な食事として、御飯とみそ汁が調理としてありますけれども、それとともに教科書の101ページにお節料理がイラストと説明文で紹介をされています。また、これも囲み記事の中に和食が紹介されて「おもてなしの心」という文言が添えられております。これによって伝統文化への理解につながるような工夫がされているというふうに思います。こちらも囲み記事なのですが、「日々の備え」というところで単元の中で、防災と関連する内容を取り上げて意識の高まりを促す工夫がされているというふうに思います。

総合的に申しますと、教師にとっては、生活経験の乏しい子どもにも身近な体験から課題を発見させることができます。また、児童にとっては、身につけた知識や、それから技能を活用して自分の身近な課題を解決しようとする意欲につながるような工夫がなされているというふうに思います。例えば、ノートの買い方について、目的を確かめ、情報を集め、比べ、振り返るという一連の学習活動が提示されておりますけれども、この一連の活動を通してよりよい買い物ができるようになり、同時に子ども

自身が個に応じた課題解決の学習にもなるというふうに考えます。

続いて、開隆堂出版の御説明をいたします。

まず、内容について、児童が初めて体験する実技分野、例えば、まないたの使い方やボタンのつけ方等々、作業手順がイラストや写真で詳しく説明をされてとてもわかりやすくなっています。また、「チャレンジコーナー」という1ページ分の題材が各学期の終わりに設けられております。これによって長期休業中に学習したことを家庭でも実践させ、知識・技能を定着させる、また生かされるような工夫がなされているというふうに思います。

分量については、学年の授業時数にあわせて学習量にも軽重がつけられており、教師にとっても無理なく学習が進められるよう配慮されております。

表記については、身近な外国語を使ったタイトルを使用することで、児童が学習内容のイメージを持ちやすいように工夫がされております。これは各単元の配列・構成とも関連いたしますけれども、児童の発達段階にあわせてクッキングもソーイングも、平易な内容からより高度な難しい内容へと学習内容が配置されていて、目当てや見通しを持ちながら子どもたちがより達成感が味わえるような配慮がなされています。緑のカーテン、ごみを減らす、4Rといった環境教育や、全国のみそ料理、雑煮の写真を紹介するなど、伝統文化を学ぶという今日的な課題にも児童の興味・関心が向かうように配慮されております。

総合的に言えば、全単元を通して情報量が豊富であり、題材を視覚的に説明することで学習意欲を高める内容となっております。また、どの実習内容も見開きページの横流れになっていることでとてもわかりやすく、教える教師にとっても説明しやすい教科書となっているというふうに考えます。

以上で説明を終わります。

○小田原委員長 「家庭」については以上でございますが、何か御質疑、御意見はございませんか。いかがですか。

○和田委員 単元の数というか、設定の仕方についてはどうでしょう。5年生で7単元と10単元というようなものとか、全体で14単元と17単元というような形になっていますよね。これはどういうふうに解釈したらよろしいんですか。

○原市教科別調査部会「家庭」部長 授業時数にもかかわりますけれども、5年生で60時間、6年生で55時間となっていますので、当然その分量は配分を工夫しなけ

ればいけないというふうに思います。

それで、5年生の開隆堂出版が少し多目で、東京書籍が少し少な目になっていますけれども、学ぶ題材は同じで、開隆堂については多い分というのは、その1つの単元を例えば生活の部分を二つに分けて学ぶような配置になっていますので、子どもの実態にあわせてその辺は入れかえたり一緒にしたりすることはできると思いますので、一応そういう配慮がなされているというふうになっています。

○小田原委員長 学年が入れかわっているというのがあるんですね。例えば、開隆堂の「今の生活を見つめて」という部分は、6年生と5年生にわたっているのだけれども、「家族とほっとタイム」とか、あるいは「家族に協力してやってみよう」というものを、東京書籍では6年生の後半のほうにまとめて持っていつているということです。だから、単元が少なくなっているということだろうと思います。だから、限られた時間の中で、単元が少ないほうがやりやすいのか、多くして分けていったほうがやりやすいのかと、そういう違いになってくるのだろうと思うんですけども、いかがですか。

○原市教科別調査部会「家庭」部長 そうですね。これは学校、それから児童の実態によって変わってくるだろうというふうに思います。

○小田原委員長 その他ございますか。

○星山委員 実際に今、家庭科を教えていらっしゃる方ってどういう先生たちなのかなということと、それと家庭科という教科は日々の生活に結びついていると思うので、見ようによってはとても高度なことも教えていると思うのですが、子どもの力も実際のいろいろではないかなと思うんですよ。現場で教えていらっしゃる先生から、子どもたちの実態により合った、また生活に生かせるようなわかりやすさというところから、何か御意見等が出ていたら教えていただけるとうれしいんですが。

○原市教科別調査部会「家庭」部長 現在、八王子市には、小学校が70校ありますが、どれくらいの家庭科の専科がいて、どのくらい担任が教えているかという割合、数字はわからないんですけども、家庭科部会は家庭科の専科が少なくて、圧倒的に担任が教えている割合が多いと理解をしております。ですので、もちろん、ほかの授業をしながら家庭科の授業も教えている先生がやっぱり多いというふうには思います。割合はちょっとわかりません。

それから、そうした実態の中で、子どもたちに教えるときの難しさはあるでしょう

し、現場ではいろんな家庭環境・家族構成の子どもたちがおりますので、1つの理想を持って教えるというのは教える側としては配慮をしなければいけない。お父さん、お母さんがいて、おじいちゃんもいるかもわからない、おばあちゃんもいるかもわからない、また子どもが1人なのか2人なのか、1つのステレオタイプの家庭を持ってきて教えるというのはやっぱりなかなか難しいだろうというふうには思います。

○小田原委員長　よろしいですか。

○星山委員　はい。

○小田原委員長　だから、被服と食物だけではないということですね。家族とか、あるいは社会とかいうものが加わってきているのが家庭だということですね。あと環境も入ってきているのかな。

そのほかいかがですか。よろしいですか。

2社だけですが、こっちに触れていて、こっちが触れていないというのがありますよね。例えば、言語活動というのは、これは東京書籍では触れているけれども、開隆堂にないのかといたら、開隆堂にもここで言っているような「話し合おう」とか「工夫しましょう」とかというような、そういう言語活動というのはあると思うんです。

一方で、食物アレルギーは、東京書籍は触れていないんですよね。ですが、平易なものから段階的に学習するようなのが開隆堂にしかないかということ、東京書籍にもあるわけですよね。だから、触れていない部分がどこで、どうして生じちゃったのかというのは説明できますか。

○原市教科別調査部会「家庭」部長　まず、言語活動については、言語活動の充実ということが言われているところですので、両社ともに工夫がされていると思います。

例えば、東京書籍では19ページに「クイズ わたしは、なんでしょう」といった取り組みがあったり、また開隆堂はページの下に「ひとくちメモ」として、家庭科で使う言葉の説明が端的にまとめられていたり、そういったことを通して子どもたちはその家庭科の言葉という部分に関心を持ったり、理解を進めたりすることができるようになっています。また、東京書籍は17ページに「トライカード」というものがあります。また、開隆堂には「振り返りカード」というものがあり、学習活動がそれぞれ例として載っておりますので、そうした取り組みを通して子どもが言語活動にしっかり取り組めるような形を両者ともとられているというふうには思います。

ただ、今、委員長が御指摘された食物アレルギーについては、これは文言としては、

開隆堂には「食物アレルギーに気をつけましょう」と明確に書かれているんですけども、東京書籍にはそういった明確な文言は使われていません。ただ、どちらにしても食物アレルギーというのは今非常に関心の高いことなのでですけども、要は当該児童とか、学校とか家庭で配慮してくださいということが、教科書の方針なのかなというふうには理解しております。

ただ、教える教師としては、気をつけて安全にしっかり取り組んでいかなければいけない課題だというふうには理解しています。

○小田原委員長　　ということですが、そのほかありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　　それでは、「家庭」については特にございませんで、以上ということで、どうもお疲れ様でした。ありがとうございました。

以上で、各教科についての資料作成委員会からの報告は終わりということですが、全体として何か御質問とか御意見とかはございますか。

○山本統括指導主事　委員長、申しわけありません。

先ほど理科のほうで、資料にありました啓林館のカイコガについてでありますけれども、「カイコガが紹介されている」ということで資料のほうにお示しされておりますが、今、確認したところ「カイコガについての記載や紹介はない」ということでしたので、訂正をお願いできればと思います。

それから、もう一点、これは口頭での話だったんですが、図画工作のところでは色覚特性について「20人に1人」という話がありましたが、正確には「男性の場合が20人に1人」「女性の場合は500人に1人」ということですので、その点についてをつけ加えて訂正をさせていただきます。

以上です。

○小田原委員長　　訂正がございましたので、御訂正をお願い申し上げます。

そのほか委員の皆さんで何かございませんか。全科でも構いませんが、よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　　それでは、事務局に用紙を回収していただきますので、御記入をいただいて事務局のほうから封筒に入れていただきます。

〔各委員用紙記入〕

○小田原委員長　それでは、よろしいですか。

〔記入用紙回収・封印・委員長のサインによる封緘〕

○小田原委員長　それでは、今封印した用紙は、8月20日まで事務局で保管ということ
でお願いしたいと思います。8月20日に開封し、また協議をして決定していただく
という流れになると思います。

今の協議について事務局のほうで何か補足することはございますか。事務局はよろ
しいですか。

○相原学校教育部指導担当部長　ございません。

○小田原委員長　特にないようでございます。

他に、何か報告する事項等はございますか。

○野村学校教育部長　ございません。

○小田原委員長　痛ましい事故が起こっていますけれども、またいずれかの機会に御検討、
御協議いただくということでよろしいですか。

（「はい」と呼ぶ者あり）

○小田原委員長　では、特にないようでございます。

委員の皆さんのほうで何かございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○小田原委員長　では、特にないようでございます。

以上で、公開での審議は終わります。

ここで暫時休憩といたします。

休憩後は非公開となりますので、傍聴の方は御退室願います。

再開は11時45分ということをお願いします。

【午前11時38分休憩】